港区立南山幼稚園
園長　　河合 晴美

令和2年度 港区立南山幼稚園経営計画

1 目指す幼稚園像

港区立南山幼稚園は、独立園となり4年目を迎える。園児数は、3歳児25名、4歳児26名、5歳児26名で総園児数は77名である。ここ数年は、外国籍の幼児が在籍することが多く、通園している範囲も広い。隣接する南山小学校とは、併設園のころから連携、交流を続け、幼小連携において充実した教育内容が積み重ねられている。また、近隣の高等学校や麻布商店街他、地域との交流も盛んである。本園は、地域に親しまれ、創立85年を迎える歴史のある幼稚園である。

今年度は、教育課程における幼稚園教育目標を達成するための基本方針の3つの柱を中心に、港区教育ビジョン、港区学校教育推進計画及び港区幼児教育振興アクションプログラムと併せて、幼稚園教育において育みたい資質・能力を明確にした「南山幼小連携プログラム」「年間指導計画」を引き続き活用し、小学校以降の教育を見通した幼稚園教育3年間の充実した教育を推進する。

また、港区学校教育推進計画より①幼児が安全で安心して過ごすことができる幼稚園②幼児が生き生きと楽しく遊び、学ぶことができる幼稚園③保護者・地域とつながり、信頼される幼稚園を幼稚園経営の視点におき、幼児・保護者・地域・教師がともに豊かに育つための幼稚園経営を進める。目指す幼稚園像を以下のとおりにする。

目指す幼稚園像

◎幼児の健やかな成長と幸せのため、

幼児・保護者・地域・教師がともに豊かな学びを創り出す幼稚園

2 幼稚園の教育目標

人権尊重の精神に基づき、幼稚園・家庭及び地域社会の連携を基に、心身ともに健康で自ら主体的に遊びや生活に取り組み、よく考え、様々な人との関わりを深め、豊かな学びを創り出す幼児を育成するため、次の目標を設定する。

〇げんきな子　〇よくかんがえる子　〇なかよくする子

3 目指す教師像

今年度は、新しい教職員構成となり、経験年数も様々である中で、互いに切磋琢磨しながら、幼稚園の教育活動や幼児の成長に対し実りある日々を過ごすために、教師像を以下のとおりとする。

自分でよく考え、主体的に行動し、豊かに学ぶ教師

〇一人ひとりの幼児の心に寄り添い、指導力向上のため、努力し続ける教師
〇自分でよく考え、主体的に行動する教師
〇失敗を恐れずに挑戦する教師
〇互いに実践を語り合い、学び合い、高め合える教師
〇保護者・地域から信頼される教師

4 中期的経営目標と方策（令和2年度～令和4年度）

（1）教育目標「げんきな子　よくかんがえる子　なかよくする子」を目指し、「年間指導計画」に基づいた3年間の幼稚園教育を確実に実現する。

（2）港区立南山小学校と同一敷地内にある恵まれた立地と特色を生かし、小学校校庭、1階2階の保育室・遊戯室を意図的・計画的に活用し、園舎内外において幼児同士の関わりが深まる教育活動を充実させる。また、園舎・園庭・保育室の整備や改善をさらに進める。

（3）南山の教育を創造し、幼児の成長に喜びを感じ、幼児理解に努め、教職に携わる誇りと責任、情熱をもって教育にあたる教職員集団をつくる。

（4）幼稚園を地域に開き、親しまれることで、地域の方が園の教育のよき理解者となってくださる区立幼稚園となることを目指す。そのために、地域への情報発信を工夫するとともに、地域の方の教育力を教育活動に生かし、地域との信頼関係を強固なものとする。また、学校運営協議会の開始にあたり、学校運営協議会委員、南山小学校と協働で会の運営を進める。

5 短期的目標と具体的方策（今年度の取組）

（1）社会に開かれた教育課程【教育内容】

①ティーム保育を充実させ、教員の創意工夫により、教育活動全体が幼児にとって明るく楽しい園生活となるよう改善と工夫を重ね、カリキュラム・マネジメントを実施する。

→・ティーム保育を充実させ、幼児理解や指導の方向性、教材の開発等、幼児の実態に合った指導が展開できるよう工夫し、改善を図る。

・指導計画に沿って教育内容を組み立て、全教員が全幼児に寄り添い、幼児理解をもとに指導を振り返る。

・日々の保育の振り返りを園内研究他、日常に位置付ける。幼児の成長や変容をとらえ、発達の理解に努めながら、明日につながる保育を展開できるようにする。

②幼児一人ひとりの思いや願い、発達の理解に努め、保護者、地域と信頼の絆を結び、愛情あふれる保育を展開できるようにする。

→・日々の保育と実践記録をもとに、幼児にとって必要となる経験を積み重ね、成長を見届けられる個人面談や学級懇談会の内容の充実を図る。また、保護者や協力機関、教員同士、日々のコミュニケーションを大切に、幼児の成長をともに支える協力体制をつくる。

③外国籍の幼児や海外から帰国した幼児など、言語・文化の異なる幼児も含め、一人ひとりの個性に応じた指導を充実し、多様性を尊重する態度や姿勢を育む。

→・翻訳タブレット等の機器、必要となった翻訳メモの作成、補助に協力いただく保護者や通訳者を介し、伝達事項等では、丁寧な関わりを心掛ける。

・各自が英語力の向上を図るとともに、言葉のみならず、表情や関わり方などでは、それぞれが持ち味を生かしたやり方で全ての幼児、保護者とのコミュニケーションを充実させる。

④オリンピック・パラリンピック教育を通じて、日本の伝統文化に触れ、国際理解を促す教育を推進する。

→・「運動遊び」「外国人との交流」「日本の伝統文化に親しむ」を3本柱として、本園の特色を生かした取組として定着させる。

・オリンピック・パラリンピック教育の掲示コーナーを学期に1回、3本柱と関連した写真等を掲示し、幼児、保護者のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を深める。

（2）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を見通した教育内容の充実【教育内容】

①基本的な生活習慣を身に付けさせ、伸び伸びと運動しようとする意欲と態度を培い幼児の健やかな成長を図る。

→・発達に応じて基本的な生活習慣が身に付くよう、学期ごとに指導計画や「家庭で大切にしたいことハンドブック」を活用して評価を行い、指導の改善を図る。

・学期ごとに指導計画の検証、環境マップや教材レシピの作成をする。

②幼児が主体的に遊びや生活に取り組む中で、試行錯誤したり繰り返し挑戦したりする学びの過程を重視し、よく考え行動する力や粘り強く取り組む力、思考力の芽生えを育む教育を推進する。

→・PDCAサイクルを通して、教員の保育の振り返りの時間や翌日の保育の準備に向けた時間を確保するとともに、声を掛け合うことで教員同士が見通しをもち、教育活動を進めていけるようにする。

③幼児同士が共通の目的に向かって協同する体験を積み重ね、地域の人や小学生、異学年など様々な人と関わる中で、豊かな心情と人と関わる喜びや親しみを感じる心を育てる。

→・日々の保育の遊びと行事のバランスの中で、積極的に異年齢で関わる機会を設定する。体験したことのよさを保護者や地域に発信し、教育活動への理解につなげていく。

④集団生活を通してよいことや悪いことに気付き、自分で考えて行動する態度を育て、規範意識や道徳性の芽生えを培う。

→・3 年間の指導の積み重ねの先に「幼児期の終わりの姿」があることを見通して、聞くこと話すこと、約束やきまりの大切さが分かることなど、意図的・計画的な指導と日常の幼児の姿から見出される課題に、適宜適切に対応する。

・道徳性の芽生えに関する指導計画を学年会や園内研究会で確認し、意識して指導を行えるようにする。

⑤「南山幼小連携カリキュラム」の改善と工夫を重ね、小学校教育との接続を図る。

→・「年間指導計画」の検証を行うとともに、各学年で指導を振り返りながらPDCAを着実に実行し、評価・反省を繰り返しながら保育の充実を図る。

・「小学校ぶらり訪問」を行い、小学校の授業や壁面環境、教室環境等を参観し、学びや発達の連続性について学ぶ。

（3）保護者から信頼され、地域に愛される魅力ある幼稚園づくりの推進【家庭・地域】

①保護者参加の園行事、PTA活動の工夫、・改善に努め、共に子育てを担うパートナーとしての関係を磐石するとともに、子育て支援としてのサポート保育を実施し、家庭との連携を円滑に進める。

→・週に2～3回程度、ホームページを更新する。

・月の便りの行事予定の一部英語版を作成する。また、保護者の理解が必要となった配付物には、英語版を添える。

・降園時や面談、園庭開放時などの時間を活用し、保護者の気持ちに寄り添いながら、幼児の成長や発達の見通しを伝え、保護者が安心できるようにする。

・保護者会や各行事で、幼児の育ちを配付物やプレゼンテーションソフト、掲示物等で発信する。

②南山小学校、六本木中学校や都立六本木高校との連携、麻布十番商店街との緊密な連携を推進し、地域の幼稚園としての信頼が得られるようにする。

→・南山小学校5年生を中心とした交流活動、小学校との合同行事を引き続き充実させ、互恵性のある教育活動として継続させる。

・六本木中学校の職場体験や都立六本木高校の生徒との畑での交流を引き続き充実させ、豊かに人との関わる体験をさせる。

・麻布十番商店街の方との味噌づくり、こいのぼりや七夕飾りを届け、飾っていただくこと、「十番だより」への教育内容の発信、高齢者との関わりなど、園と地域との関わりを継続させる。

（4）安心・安全で魅力的な教育環境の整備【施設・整備】

①日々の園生活において、職員の環境美化と危機管理意識の高揚を図る。

→・毎日、退勤前に園舎・園庭等、園環境を点検し整える。

・安全な登降園ができるよう、職員による見守りを継続し、交通安全週間と合わせて幼児・保護者に学期に1回、門や玄関などの使い方の指導や確認をする。また、用務主事や警備員、PTAと連携を図り、幼児の安全確保を徹底する。

・感染症予防については、園内環境を整備し、手洗い、うがい等は、幼児のみならず、教職員、保護者にも周知し、徹底する。特に、新型コロナウィルス感染症に対しては、区の方針を受け、感染防止に努める。

・職員が職員室で心地よく仕事ができるように、机上や事務の整理など、週1回クリーンアップタイムを実施する。

②幼児の安全な園生活のため、園職員による安全点検や安全指導の実施、用務主事、小学校との連絡を強化する。

→・毎日、出勤後・退勤前に園舎・園庭等、園環境の安全点検を行う。

・週１回の用務主事、副校長との打ち合わせ、校長、小学校教務主任との連絡を密にし、情報共有をする。

③小学校の校庭を積極的に活用することを指導計画に位置付け、多様な動きが経験できるよう園内外の環境を工夫して、幼児の体力向上につなげる。

→・縄跳びやボール遊びの継続、オリンピック・パラリンピック教育における運動遊びの内容の充実、教材の開発に努め、実践を継続させる。

④園庭の畑、花壇、南山の森、都立六本木高校の畑など、意図的・計画的に活用し、幼児に季節感を味わわせるとともに、幼児の知的好奇心や思考力の芽生えを培う。

→・六本木高校の畑や校庭に出向き、自然と関わる時間を確保する。

・教員同士、自然とかかわる知識を共有し、幼児にとって豊かな経験ができるように環境を構成し、援助の工夫を促していく。

（5）互いに高め合う教員の育成【教職員】

①各教員が自己の保育の課題の解決に向け、失敗を恐れずに指導の工夫を考え、新たに挑戦しようとする意欲をもつ。

→・園内研究会や日々の振り返りで、指導に対する迷いや不安を解消できるようにする。また、環境マップや教材レシピを作成し、活用することで指導方法が選択できるようにする。

・戸外での多様な動きを引き出す遊具、場の使い方の工夫などができるように教材の開発に努める。

②自分の保育に対する説明責任を果たすとともに、互いの指導を語り合い、ティーム保育を充実させ、各教員が相互に創意工夫を重ねる。

→・学年会や日常に保育において、OJTの時間を確保し、互いの保育から指導方法を学び、保育の見通しを共有する。

・事務職員を活用して教材の準備を計画的に進める。

③自身の仕事に主体的に取り組み、全体を把握しながら園務分掌を遂行する力を身に付ける。

→・ホワイトボードを活用し園全体の仕事量を「見える化」することで職員間で情報の共有化を図り、互いの分掌の進捗状況を把握できるようにする。

・行事ごとの反省を生かし、教育計画の修正、教育活動の改善を行うとともに、担った園務分掌の役割や内容を明確化し、園運営に携わる意識を強める。

・働き方改革を推進し、協力し合い、効率よく仕事を進めていく態度や習慣を身に付ける。

④自身の生き方をしっかりもち、家族・家庭を大切にするとともに、心豊かで心身ともにしなやかでたくましい人間になる努力をする。

→・働き方の意識を変え、ワークライフハーモニーを大切にし、自身が心豊かな教師となるべく、

遅くとも午後7時までに退勤、毎週水曜日は、定時の退勤を目標とする。

・人権教育にかかわる研修を行い、教職員が人権感覚を磨き、教育活動が行えるようにする。

・服務事故防止のため、学期始めと終わり、及び服務事故防止月間に事例検討を含め服務事故防止研修を行う。また、都や区の資料を活用し、服務規律を厳守する態度を醸成する。

・自身の自己研鑽や感性を磨くため、日々の生活を豊かにするともに、園外の様々な研修への参加を促す。